

水と緑のネットワーク整備の推進

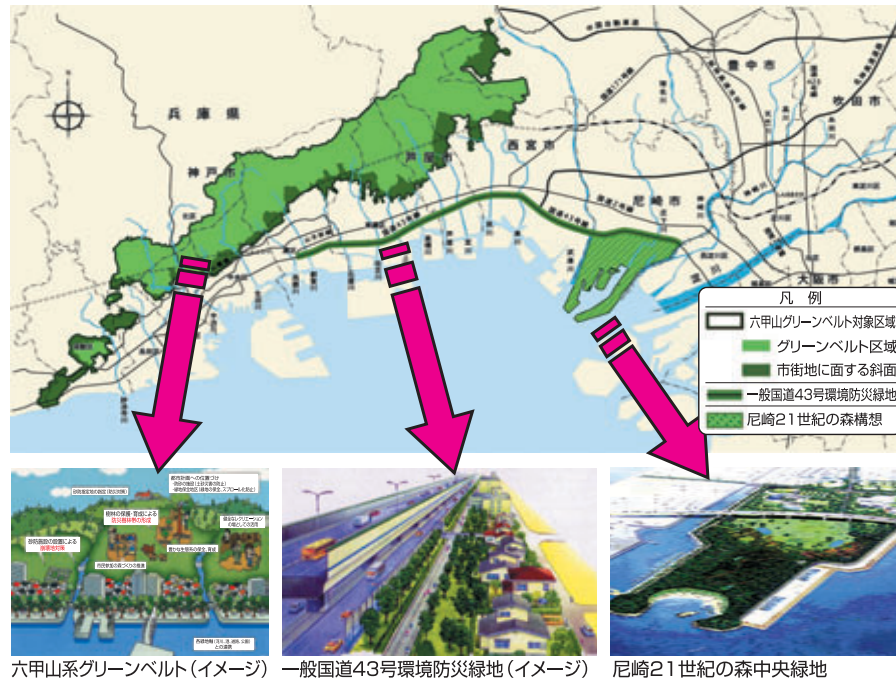
福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
 尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市

近畿地方整備局では、阪神淡路大震災の教訓や環境対策への重要性を踏まえ、災害時の対応や防災、環境対策として「六甲山系グリーンベルト」、「一般国道43号環境防災緑地」、「尼崎21世紀の森構想」を推進しています。

近年、失われつつある自然環境の復元・保全を求める声が高まっている状況を踏まえ、各事業の目的に「環境への配慮」が含まれるようになりました。今後は、個別の事業において自然環境の復元を図るだけでなく、個別の事業がそれぞれ創出する緑地帯などを有機的に連携させることにより、緑地空間をネットワーク化し、ゆとりと潤いのある、水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型の地域づくりの推進を目指します。



「尼崎21世紀の森構想」は、都市再生プロジェクト（第3次決定）において、「大都市圏における都市環境インフラの再生（臨海部における緑の拠点の形成）」に位置づけられています。平成18年度には、「尼崎21世紀の森構想」



では、平成18年に開催される「のじぎく兵庫国体」にもあわせた整備を、「六甲山系グリーンベルト」では、都賀川以西の用地買収を、「一般国道43号環境防災緑地」では、用地取得と植栽整備をそれぞれ推進します。

琵琶湖・淀川流域圏の再生計画の推進

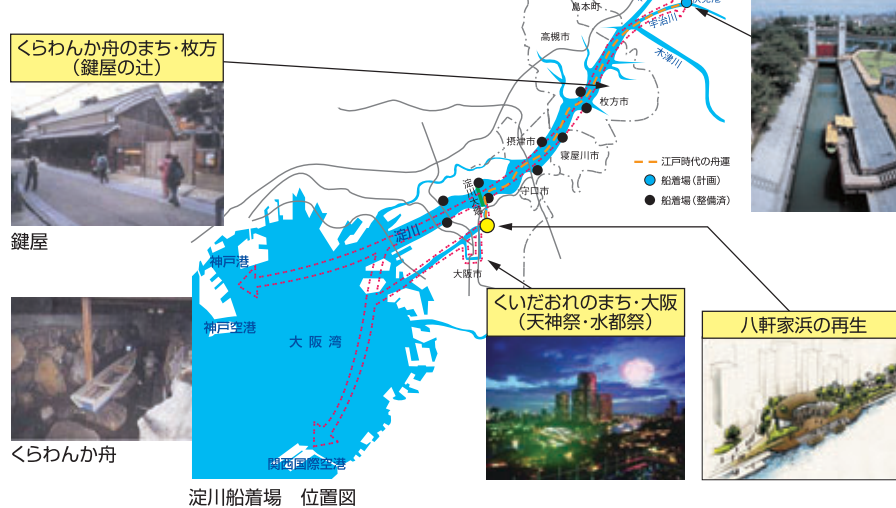
福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
 琵琶湖・淀川流域圏

琵琶湖・淀川流域は、古くから我が国の政治・文化・経済の中心としての重要な役割を果たしており、特に琵琶湖は世界有数の古代湖として固有の生態系が存在する等、豊かな水と緑が人々の暮らしと密接な関わりを保ってきました。

平成17年3月には「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」が策定され、これに基づき、「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに、7つの戦略のもとで流域圏のあらゆる機関が連携して具体的な行動を展開しています。

関係する省庁、地方公共団体、NPOなど様々な主体が琵琶湖・淀川流域圏を一体として捉え、連携した行動を行うことにより、歴史・文化を活かしながら、全ての生物の営みが持続可能となる環境を再生し、安全で活力あふれる魅力的なまちづくりを行うことが可能となり、これらの行動を通じて、「豊かな生態系を育み淡水魚類の宝庫である琵琶湖・淀川」、「京都大阪を結ぶ動脈としての淀川」、「水の都大阪」、「かつてあった町なかのせせらぎ」、「川を向いた街並み」、「豊かで清浄な水」等の再生を目指します。

平成18年度には、『みずべプロムナードネットワーク整備（淀川河川舟運、拠点の整備）』、『まちにせせらぎを導入（京都・西高瀬川の整備）』を実施します。



市民の声

流域を繋ぐ市民側の会として「琵琶湖・淀川流域連携交流会」が、琵琶湖・淀川流域圏の再生を官民が、両輪でそれぞれの役割を担いながら進めていく目的を持つ会として誕生します。水質改善、生態系の復活、美化活動、さらに、流域の生活文化、人づくり等を流域の危機を感じながら再生を願うあらゆる思いの人が、思いを共有しあい、起こりがちな利害の対立を共通の課題へと高め、現代版のコミュニティの再生を進めることだと思います。 NPO法人「人と自然とまちづくり」 理事長 横山 葵

自然と人との共生を目指した緑の拠点

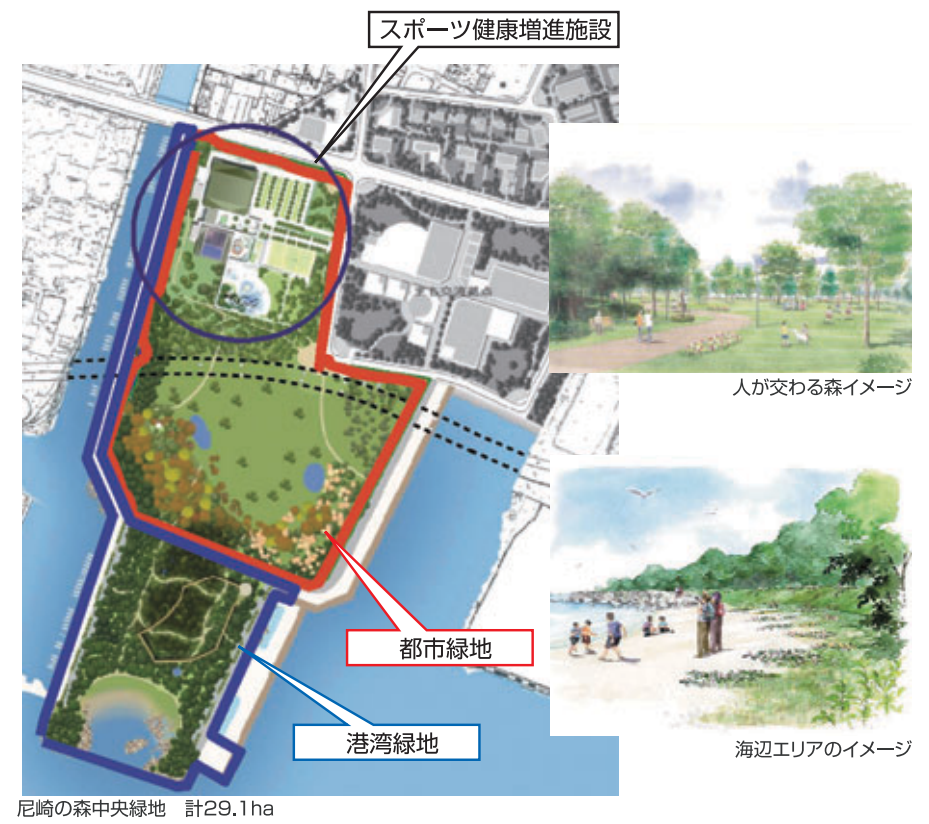
福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
 尼崎の森中央緑地

近年の産業構造の変化に伴い地域活力が低下している尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、兵庫県では平成14年3月に「尼崎21世紀の森構想」を策定しました。

そのリーディングプロジェクトとして、都市公園事業（都市緑地）及び港湾事業（港湾緑地）が連携し、森と水と人が共生する環境を備えた緑の拠点として「尼崎の森中央緑地」の整備を進めています。

本緑地は、兵庫県尼崎市の臨海部に位置し、「都市再生プロジェクト（第3次）」にも選定されている「尼崎21世紀の森構想」における、先導的な森づくりの中心に位置づけられており、「スポーツ健康増進施設の整備による地域のにぎわい創出」、「水泳等を通じた地域住民の健康維持・増進」、「中央緑地における森づくりを通じた、自然回復に対する住民の意識の醸成、さらなる環境改善の取り組みに向けての参画と協働の推進」などの事業効果を生み出すものであり、今後、構想対象区域全域（1,000ha）に効果を波及させていくことを目標としています。

現在、豊かな自然環境の中でレクリエーション、スポーツを通じた健康づくりや、人々が楽しく遊び、ふれあうことのできる交流の森づくりを県民参画のもと進めており、平成18年に開催される「のじぎく兵庫国体」にあわせた整備を行います。



- 尼崎の森中央緑地基本計画策定時における「尼崎21世紀の森づくり協議会」（※学識者、各種団体、市民、企業等により構成）からの主な提案
 - ・市民がつくる森ゾーンの設定
 - ・市民による植栽等の活動との連携
 - ・市民等の参画による管理運営の検討
 - ・地域の魅力づくり活動と連携した段階整備計画（イベント等による整備途中の現場PRと可能性の実感）
 - ・多様な活動を支援・促進する拠点となる機能
- 尼崎の森中央緑地植栽計画検討会での基本的考え方
 - ・森の目標像として「生物多様性の高い森」を創出することを定め、森林・草原・湿地等の多様な生態系の導入にとどまらず地域の気候風土の中で適応してきた遺伝子資源の保全に配慮する。

瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会の活動

福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
 瀬戸内海

瀬戸内海全体の歴史の重み、自然の恵みを生かし、個々の地域が抱え持つ資源を活用すると共に、多様な資源を持つ各地域が連携してネットワーク化することにより、瀬戸内に新しい文化を育み、より快適な地域を作り出すことが重要です。

協議会は、平成3年に設立し、平成18年4月1日現在、瀬戸内海沿岸の106市町村、11府県、国土交通省9地方機関によって構成され、沿岸地域全体の発展を図ることを目的として、様々な活動を行っています。

平成18年度は「海的路の構築及び防災ネットワークの整備」「瀬戸内の魅力発信」「瀬戸内海の環境創造」を目標とした協議会活動を展開していきます。

